

黄砂が降る日に

内海彰子
三重県・六四・主婦

いつの日でしたか／冬の日に／黄砂が降りました／その頃／沙漠の本を買ったばかりでした／砂は／波であり滝であった／と。そして／見はるかす海もまた／砂であった／と。流沙は／古代でも 近代でもない／と書かれてありました。

黄砂が降った夜／わたしは／遥かなあなたに／手紙を書きました。こんど生まれかわったら／騎馬民族の女

に生まれたい／と書きました。草原を駆け抜ける女でいたい／と書きました。そして／沙漠を疾駆するあなたのお子を／五人産みたい／と書きました。

その手紙は／わたしの傍で、まだ秘そやかに眠っています。

黄砂が降る日に／ポストまで歩きます／
もうすぐ／冬です。

*海軍兵学校で艦に乗る寸前に終戦となり、彼は生きて故郷に帰ってこられました。手を握ることもなく、私達は別々の道を歩いてしまいました。鮮烈な初恋でした。